

令和7年度 第3回松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

- 1 日時
令和7年9月29日（月） 午後2時～4時
- 2 場所
ジェンダー平等センター ネットワーク室
- 3 出席委員（14名）
- | | | | |
|----|----------|-----|---------------|
| 会長 | 佐藤 友則 | 副会長 | 犬飼プリヤモン |
| 委員 | 村井 博子 | 委員 | 山本 侑一郎 |
| 委員 | 青山 茂 | 委員 | 陳 思静 |
| 委員 | 持山 シャロン | 委員 | ハインリヒ トマス ロニー |
| 委員 | 大石 美香 | 委員 | 土谷 未来 |
| 委員 | 櫻井 健次 | 委員 | 岡田 忠興 |
| 委員 | マキナリー 浩子 | 委員 | 永井 文治 |
- 4 事務局
- | | | |
|------------|------|-------|
| 住民自治局人権共生課 | 課 長 | 松本 志保 |
| 同上 | 課長補佐 | 山本 修平 |
| 同上 | 主 事 | 小山 結 |
- 5 会議次第
- (1) 開会・あいさつ
 - (2) 会議事項
ア 第4次松本市多文化共生推進プラン案について
イ 事前意見について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 6 会議の要旨

(「第4次松本市多文化共生推進プラン案」、「事前意見」について、事務局から説明)

会長

ご説明ありがとうございました。

ご意見・ご質問などありましたら、よろしくお願いします。

委員

私も基本目標4の「かえる」を「かわる」にした方がいいと思いました。その次の「ひろがる」は、積極的にその将来に向かって働きかけをするという意味で、「ひろげる」にした方がよいと思います。

また、基本目標の順番について変更した方がいいと思いました。「うけいれる・みとめあう」ことが最初で、その後でつながったり、楽しんだり、学んだりすると思うので、基本目標1と2は順番を変えた方がいいと思います。

会長

私は順番に関しては現行で構わないと考えていました。

第4次プランの重点的取組みが、「多文化共生キーパーソンの活躍」であり、共生に向けて活性化させていこうということで、基本目標1に据えたという理解でいましたので、この1番「つながる・たのしむ」、2番「うけいれる・みとめあう」という流れは、違和感はなく、これが方針だったと考えております。

基本目標4「かえる・ひろがる」を「かわる・ひろげる」にするのかはいかがでしょうか。

「かわる・ひろがる」だと自動詞です。強制力ではなく、自然に変化していくような印象があります。

一方「かえる・ひろげる」となると、行政などが力を働かせて変化させるような印象ですが、皆様のご意見はいかがでしょう。

委員

私は具体的な取組内容などを考えると「かえる・ひろげる」の方がいいかと感じました。

委員

多文化共生推進プランが誰に向けたものであるのかということが重要だと思います。

このプランを読んで自分事としてとらえ、自分も変わらなければということが多文化共生には大切だと思います。

ですので、プランを読んだ人が「かわる」の方がいいと思います。

委員

イメージとして横展開を意味する表現のほうがいいと思います。

委員

外国人の私には「かわる・ひろげる」の方が積極的な感じがしますが、日本語の表現なので、日本人の方に任せたいと思います。

委員

私は「かえる」をひらがなで見たとき、最初漢字が思い浮かばなかったです。例えば、松本市だから縄手通りの蛙にかけたのかと思いました。また、帰国するという意味合いもあるから、いろんな意味があって、何だろうと戸惑った部分があります。

そこをはっきりさせた方がいいと思います。

委員

誰に向かってメッセージを伝えたいかによると思うんですが、個人的には自分が変わって、それが自然に広がっていくのがいいのか、自分が変わって自ら広がっていくのがいいのかというところで考えておりました。

委員

やっぱり自分事として捉えてもらい、自分の意識を変えてもらう必要があると思います。

だから、「かわる」の方がいいと思います。

次の「ひろがる」は「ひろげる」になると、自分が広がっていかなければならなくて、何をどう広がっていくのかを考えることが大変な印象があります。

一方、自分が「かわる」ことで、広がっていくというストーリーが、自分の中でできると思うので「かわる・ひろがる」がいいと思います。

委員

今の表現の「かえる・ひろがる」のままだと、基本目標3「まなぶ・そだつ」と基本目標4の順番は逆の方がいいと思います。

また、「かわる」の方が自然に自分が変わるけど、「かえる」だと無理やりに感じます。

委員

基本理念で「みんな」という柔らかい表現にしているので、「かえる・ひろげる」という、人に力を加えるような表現よりも、「かわる・ひろがる」という柔らかい表現の方が統一感があっていいと思います。

委員

強制力を持って進めることは本来の目的ではなく、みんなが理解してお互いに共生するというのが、プランの目標だと思います。「かえる」だと、強制的に変えようという力

が感じられるので「かわる」とし、自分を通して変わろうとすること、そしてその結果、「ひろがる」ということがよいかと思います。「ひろげる」だと、またそこで強制的な感じを受けるので、「かわる・ひろがる」が一番受け入れられるかなと思います。

会長

ありがとうございました。

では、基本目標4は「かわる・ひろがる」に修正したいと思います。

続いて、評価の仕方も、これまでの方法から変え、年度初めに具体的活動・行動を設定し、年度末にそれがどの程度実行できたかを確認し評価するという方法に変更をしていきますが、賛同いただけますでしょうか。

ありがとうございます。

その他、ご意見・質問はありますか。

委員

このプランの中では、やさしい日本語が見られないです。大事な部分だけでもやさしい日本語や、多言語化にしてほしいと思います。

会長

貴重なご提言だと思います。

他にプラン全体を多言語化している自治体はありますか。

事務局

一部を多言語化している自治体はありますが、プラン全体を多言語化している自治体は見たことがありません。やり方を研究した上でご報告をしたいと思います。

委員

意識の変化は5年間だけでは見られないと思います。

特にもともとその地域に住んでいる人は、両親からの教えや地域に根差した文化などがあるから、意識の変化にとっても時間がかかると思います。

会長

基本目標4「かわる・ひろがる」の4-2にある「小・中学校等と連携した多文化共生意識の醸成」がこれに対応することです。

日本全体の意識が変わるのは、20年でも正直難しいと思いますが、長くかかると思います。そのため、小中学校レベルでいろんな活動をしていくということが、必要になってきます。

委員

表現などで修正を検討していただきたい部分があります。

4ページ(4)企業の役割で、「外国人の雇用や受入れを行う企業は、労働関係法令等を遵守することが必要です。」とありますが、労働法で法的義務がありますので、「必要です。」ではなく、「遵守しなければなりません。」と書いた方がいいと思います。

もう一つは、33ページ、松本市の課題(3)「外国人住民と日本人住民との意識の差への対応」の一番下の文で、「多様性は当たり前のもので捉え、自由で肯定感のある多文化共生が」とある、この「自由で肯定感」のあるっていうのが何を言いたいのかが不明です。

また、同じページの(1)で、「外国人観光客の増加を好機と捉え、松本に暮らしたいと思う意欲を掻き立てる工夫を検討します。」とありますが、外国人観光客が増えることによって松本市で暮らしたいと思う人が増えるということは、必ずしも直結しないと思います。ここの文のつながりを検討していただきたいです。

会長

ありがとうございました。

（３）の「多様性は当たり前のもので捉え、自由で肯定感のある多文化共生が主流の社会の構築が必要です。」についてはいかがでしょうか。

委員

確かに、「自由で肯定感のある」という表現自体があまり耳にしないものかなとは感じます。

委員

「多様性は当たり前のもので捉えて」という部分が、飛躍していると思いました。まだまだ現状では、多様性を当たり前と捉えられる段階ではないと思うので、もう１つ前の努力目標の方が、ステップが踏みやすいと思いました。

誰もが認められるというような、柔らかい言葉にできるかなと思いました。

事務局

令和４年度に人権に関する条例を改正し、条例の根拠が松本市にありますので、そういった部分を参考に見直しをしたいと思います。

委員

１つ目は３９ページ以降のトピックはそれぞれサイズを合わせた方がよいかと思います。

先ほどの３３ページの課題の文章ですが、「みんなが肯定感を持てる、多文化共生社会の構築」とシンプルに表現するのがいいと思います。

委員

成果指標について、どのように評価していくかをお伺いしたいです。

各基本目標の成果指標は5年後の目標値が設定されていますが、担当課が設定する具体的な活動・行動に対して具体的な数値目標を設定し、実行できたかを評価できるようにしていただきたいです。その実施できた数値を検証して、次年度につなげられるようにしたいです。

事務局

来年度以降、具体的な活動・行動の部分に具体的な数値目標が入ったものを、年度当初に皆さんにご確認をいただこうと考えています。

それに対してご意見をいただき、それを担当課にフィードバックしながら、年度末にどれだけできたかを、改めてまた皆さんに見ていただくというような仕組みで考えています。

担当課にはしっかり働きかけをしていこうと思います。

委員

40ページの基本目標2の「うけいれる・みとめあう」の成果指標のうち、多文化共生プラザの認知割合について質問です。

日本人住民は、18.8%から11.2ポイント上げ、外国人住民については41.8%から8.2ポイント上げとなっています。

日本人住民へ重点的に目標を掲げていますが、外国人住民に向けて集中的に周知した方がいいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

メインはやはり外国にルーツを持つ方の相談窓口なんですけれども、最近生活される方が多くなってきて、日本人の方からの相談というのも寄せられています。

そういったことも考えると日本人住民の方にも、多文化共生プラザがあるということは

知っていただく必要があると考えています。

周知方法は検討中ですので、ご意見いただけると幸いです。

委員

外国人住民が松本市に転入した際、市民課で多文化共生プラザのチラシを渡しています。しかし、チラシがきっかけというよりは、誰かとつながって多文化共生プラザに相談に来る方が多いです。そういう点でも日本人住民への周知が効果的で多文化共生プラザにつながる可能性が高くなると感じています。

まだまだ本当に困っている人に多文化共生プラザがつながりきれていないので、そういう方に早くつながるためにも日本人住民への認知度が上がることが重要だと考えています。

委員

外国人住民は、日本を選んで住んでいて、誰かとつながりたいと思います。だから多文化共生プラザのことを知る可能性も高いです。

日本人住民は、生まれながらにこの地域に住んでいて、本当に必要だと思った時に知ろうとすると思います。

だから、日本人住民への周知がとても重要だと思います。

委員

私も今の仕事を始めて、多文化共生プラザを知ることが出来ました。普段の生活ではなかなかつなげる機会はないですが、紹介できる立場で案内ができるので、そのような紹介をできる場所への周知も重要だと思います。

委員

私たちが地域に入って一緒に活動して、色々な方に会うことで相談がしやすくなると思います。

最近は SNS の中で知り合いになってその中で解決することが増えています。

また、キーパーソンとつながっていると、多文化共生プラザにつないで相談ができます。

問題は、SNS もやってなく、地域ともつながっていない人です。このプランでは各地域に行ってつながるとなっていますので、それが本当に成功してほしいです。

委員

42 ページ施策の方向性 2-3 「相談体制の充実（多文化共生プラザの拡充・アウトリーチ）」の取組内容 23 「多文化共生プラザ相談員と多文化共生キーパーソン、民生・児童委員等との連携（困りごとの拾い上げや早期発見）」、24 「地域づくりセンターとの連携（地域での困りごとを拾い上げ多文化共生プラザなどの相談窓口へつなぐ）」、25 「アウトリーチ活動の展開（地域で支援活動を行う団体等と連携）」に記載されている内容で、認知度をあげていくということを取組みとして掲げています。

複数の働きかけがあって、行動ができることがあると思いますが、日本人住民を始め、たくさんの方に知っていただくことで困りごとを拾い上げられるようにしたいと思います。

委員

松本市の課題の（3）ウの表現ですが、「多様性は普通のもので捉えて、自由で違和感のない多文化共生」というふうに変えた方がわかりやすいのではないかと思います。

外国人住民の理解が深まらなければ進歩がないと思います。わかりやすいプランで、広報の仕方も検討いただきたいと思います。

会長

ありがとうございます。

関心を高めてもらう意味でも、プランの作成と策定したことの広報をネットでいいの

で、たくさんの方がアクセスするような工夫ができればいいですね。

それでは、マイクを事務局にお返しします。